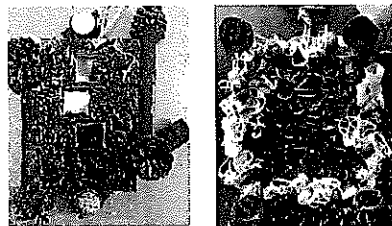


研究テーマ	イメージをもち、工夫して表す力を育む指導の工夫 －中学校第1学年「〇〇に飾りたい～銅板レリーフ～」の実践を通して
-------	---

古河市立古河第二中学校 教諭

I 研究テーマについて

平成26年から継続して、生徒一人一人が自分なりのイメージをもち、その実現に向けて工夫して表すことができるように、色々な題材において指導の工夫を研究している。自分なりのイメージをもつこと、工夫して表すことに視点を当てて指導の工夫をすることで、生徒たちは、「〇〇を使ってもよいですか」、「△△でこんなこともできました」、「どうすれば□□を表せるだろう」と新たな発想や発見をしたり、思考を巡らせたりしながら、創造活動の喜びを味わうことができると考える。



II 研究の実際

1 題材名 〇〇に飾りたい～銅板レリーフ～

2 題材の目標

- 銅板のレリーフ表現による飾り物をつくることに関心をもち、主体的に構想を練り、表現しようとする。（美術への関心・意欲・態度）
- 「飾る場所」と「見る人の気持ち」を基に主題を生み出し、材料の特性を踏まえた効果的なデザインを発想し、表し方の構想を練ることができる。（発想や構想の能力）
- 表現の意図に応じて材料や用具の生かし方を考え、創意工夫して表すことができる。（創造的な技能）
- 「飾る場所」、「見る人の気持ち」、「レリーフの美しさ」の調和、友人の作品の意図などを感じ取り、自分の考えをもって味わうことができる。（鑑賞の能力）

3 題材について

(1) 生徒の実態

本校生徒に、イメージをもち、工夫して表すことに関する意識調査を1学期と2学期に行った。その結果、表1に示したように、表したいイメージをもつことや工夫して表すことに自信をもつ生徒が増えたことがわかる。これは、1学期から2学期にかけて学習した「文字に思いをのせて～絵文字～」の題材における制作過程の中で、表

表1 表現に関する意識調査

（1学期：平成30年4月27日実施，2学期：平成30年11月21日実施，第1学年32人）

質 問	1学期	2学期
1 表したいイメージが思い浮かぶ。	68%	75%
2 材料や用具で工夫して表せる。	56%	65%
3 制作したものを、飾ったり使ったりしている。		54%

したいイメージを伝え合う対話活動と、多様な描画材を用いた体験活動を位置づけたことが、成果として現れたのではないと思われる。しかしながら、まだイメージをもつことに25%の生徒が、工夫して表すことに35%の生徒が自信をもてずにいる。さらに、「自分で制作したもので、身近な場所に飾ったり使ったりしているものがある」と答えた生徒が、約54%だった。このことから、自分でつくったものを生活の中に生かす経

験をした生徒が、全体の約半数しかおらず、生活を豊かにする美術の働きについて実感を伴って十分に感じ取っている生徒が少ないと言える。これらのことから、飾ったり、使ったりする目的や機能を考えてデザインに表す活動を通して、さらに、イメージをもち、工夫して表す力を育む手立てを講じることが大切だと考える。

(2) 題材観

本題材は、銅板の特性を生かして、凹凸の美しいレリーフの飾り物をつくる活動を行う。身近な場所に飾ることを目的に、凹凸の美しさに加えて、見る人の気持ちも考えて主題を生み出すことで、一人一人の主体的な活動を促し、表現の意図に応じて材料や用具の生かし方を考えて創意工夫して表す力を育む。同時に、自分でつくったものを飾ることで、生活を美しく豊かにする美術の働きを実感を伴いながら理解できると考える。

(3) 指導観

生徒の実態から、表したいイメージが思い浮かぶように、イメージを伝え合う対話活動を学習過程の中で位置付ける。まず、主題を生み出す段階において、「飾る場所」や「見る人の気持ち」を伝え合う対話活動を行う。そうすることで、主題を明確にし、表したいイメージをもちやすくする。同時に、飾る意識を高める。次に、表したイメージを伝え合う対話活動を行う。友人の意見も参考にすることで、個人の感じ方や好みにとどまらず、家族や友人、他者も共通に感じる感覚を意識してデザインし、飾り物としての機能を果たせるようにする。さらに、工夫して表すことができるように、レリーフ表現をするための多様な用具を準備する。そうすることで、表現の意図に応じて創意工夫して表せるようにする。これら、イメージを伝え合う対話活動を学習過程の中で位置付けるとともに、多様な道具を準備することにより、イメージをもち、工夫して表す力を育みたいと考える。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
銅板のレリーフ表現による飾り物をつくることに関心をもち、主体的に構想を練り、表現しようとしている。	「飾る場所」と「見る人の気持ち」を基に主題を生み出し、材料の特性を踏まえた効果的なデザインを発想し、表し方の構想を練っている。	表現の意図に応じて材料や用具の生かし方を考え、創意工夫して表している。	「飾る場所」、「見る人の気持ち」、「レリーフの美しさ」の調和、友人の作品の意図などを感じ取り、自分の考えをもって味わっている。

5 指導と評価の計画 (13時間扱い)

時	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
1	<ul style="list-style-type: none"> ●「飾る場所」や「見る人の気持ち」を考えて主題を見付ける。 ・TV に映し出された子ども部屋やリビング、和室、玄関、公共施設などの画像を鑑賞しながら、場所に応じて飾りたい絵が変わることを感じ取る。 ・ワークシートに飾れそうな場所やその場所に応じた見る人の気持ちを考えて書く。 ・飾る場所を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飾る場所に応じて、作品を見た人にどのような気持ちになってほしいか考えることができる。 <p>【ワークシート】</p>

2	<ul style="list-style-type: none"> ● いろいろなおもしろい形を見付ける。 ・ワークシートに思い付く限り単純な形を描く。(個人) ・ホワイトボードに思い付いた形を描き合う。(グループ) ・ミニ鑑賞会をして、見付けたおもしろい形をワークシートに描き写す。(全体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなおもしろい形を見付けることができる。 <p>【関】【ワークシート】</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 「飾る場所」や「見る人の気持ち」を考えてアイデアスケッチをする。 ・飾りたい場所と見る人の気持ちを伝え合う。(グループ) ・自分の主題を基に、前時で見付けたおもしろい形を参考にしながら、アイデアスケッチする。 ・おおまかなデザインを決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の主題を基に、アイデアスケッチをすることができる。 <p>【発】【スケッチブック】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ● アイデアスケッチを基に、デザインを決めることができる。 ・どのような願いをもってデザインを考えたら伝え合う。(グループ) ・友人の助言と銅版の特性を踏まえて、効果的なデザインの構想を練る。 ・デザインを決定し、本番用紙に描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・願いと材料の特性を考えて効果的なデザインを考えることができる。 <p>【発】【本番用紙】</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ● 凹凸の美しい表し方を考える。 ・レリーフのおおまかな表現方法(低・高・点々)を知る。 ・本番用紙に、凹凸表現(低・高・点々)の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の意図や全体のバランスを考えて凹凸表現(低、高、点々)の計画を立てることができる。 <p>【発】【本番用紙】</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ● 針打ちをする。 ・下絵の輪郭線に沿って針打ち(点々、線)する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下絵の輪郭線に沿って、適度な深さで針打ちをすることができる。 <p>【創】【作品】</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ● へら押しする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の意図に応じて材料や用具の生かし方を考え、創意工夫して表すことができる。 <p>【創】【作品・観察】</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・凹凸表現の計画を基に、表現の意図に応じて材料や用具の生かし方を考えながら、創意工夫して表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の意図に応じて材料や用具の生かし方を考え、創意工夫して表すことができる。 <p>【創】【作品・観察】</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ● 着色をする。 ・銅板を洗剤と真鍮ブラシを使って磨き、酸化膜や汚れをとる。 ・硫化カリ水溶液に浸して着色する。 ・炭酸水素ナトリウムで着色を止める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着色の手順を理解し、表現の意図に応じて、美しく着色することができる。 <p>【創】【作品・観察】</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ニスをぬる。 	
12	<ul style="list-style-type: none"> ● 木で額をつくる。 ・表現の意図に応じて、小枝や木の実を組み合わせて、額のデザインを考える。 ・ヒートンをつけたり、小枝を額のサイズに切ったりする。 ・ホットボンドで小枝や木の実などをつけて完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の意図に応じた美しい額をつくることができる。 <p>【創】【作品】</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> ● 鑑賞会をする。 ・ワークシートに願いや工夫点を書く。 ・「飾る環境」、「見る人の気持ち」、「レリーフの美しさ」の調和、友人の作品の意図などを感じ取り、自分の考えをもって味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「飾る環境」、「見る人の気持ち」、「レリーフの美しさ」の調和、友人の作品の意図などを感じ取り、自分の考えをもって味わうことができる。 <p>【鑑】【ワークシート・観察】</p>

6 指導の実際

飾ることにより、身近な生活や社会をより美しく心豊かなものにしようとする目的や機能は、飾りものがその環境に合っていたり、それを見た他者が心地よく感じたりしたときに果たせるものと考えられる。また、それを見て美しいと感じ取らせるためには、材料の特性も踏まえて効果的に表現することも大切である。そのため、目的や機能を考えて発想・構想する能力を育むためには、自分の好みやデザインのよさだけではなく、飾る環境や見る人の気持ち、材料の特性を総合的に考えてデザインを発想・構想することができる力を身に付けることと捉える。つまり、「飾る環境に合うデザイン」、「見る人の気持ちを考えたデザイン」、銅板によるレリーフ表現の特色である「凹凸の変化が楽しいデザイン」を総合的に考えてデザインを発想・構想することが大切だと考える。

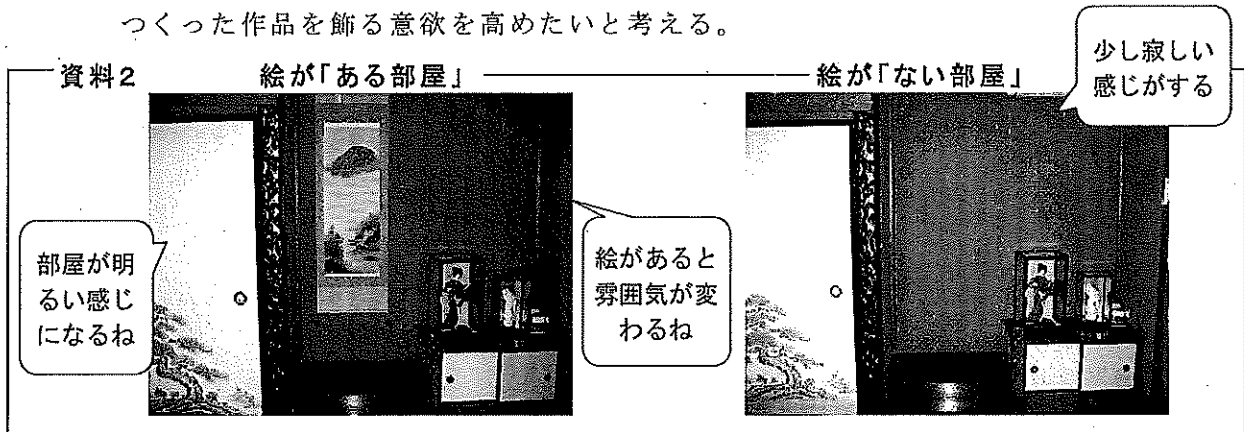
以上の考え方を基に、次の手立てを講じる。

(1) 「飾る場所」や「見る人の気持ち」を考えて主題を見付けるために

① 飾る意欲を高める鑑賞活動

ア 絵が「ある部屋」と「ない部屋」の鑑賞

資料2にある「絵がある部屋」と「絵がない部屋」をTVに映し出し、生徒に比較鑑賞させることで、絵を飾る効果を感じ取れるようにする。この活動を通して、身近な空間に作品を飾ることで雰囲気を変える楽しさを味わえることを感じ取り、自分でつくった作品を飾る意欲を高めたいと考える。



イ 飾る環境によって飾りたい絵が変わることを感じ取らせる

女の子の部屋や男の子の部屋、リビング、和室、寝室、玄関、公共施設の画像をTVに映し出し、それぞれどのような絵を飾りたいか出し合うことで、場所に応じて飾りたい絵が変わることを感じ取らせる。その時に、誰がよく見る場所なのかに視点を当てて鑑賞させることで、見る人の気持ちも考えて飾る絵のデザインを決めることも大切であることを理解できるようにする。

② 自分の主題を見付けるための対話活動

ア 飾りたい場所のイメージを伝え合う対話活動

絵のテーマとなる主題を生み出すために、作品を飾れそうな身近な場所やその作品を見た人にどのような気持ちになってほしいか書いた資料3のワークシートを基に、飾りたい場所のイメージを伝え合う対話活動を行う。具体的には、まず、グループでワークシートに書いた飾れそうな場所や見る人の気持ちを写真1のように伝え合う。そうすることで、新たに飾れそうな場所を思い付いたり、見る人の気持ちへの着眼点に広がりや深まりをもてるようにした

りして、飾りたい場所を決定できるようにする。

さらに、全体では、似たような場所でも「見る人の気持ち」を違う視点で書いている生徒や「見る人の気持ち」が似ていても「飾る場所」が違う生徒のワークシートを見つけてタブレットPCで撮影し、写真2のようにTVで映し出しながら生徒に発表させる。

これらの活動を通して、友人との共通点や相違点を感じ取りながら自分の主題を明確にもてるようにする。

資料3 ワークシート

飾れる身近な場所 家の床・机の周・洋服 和紙・色など好きな色を。	誰に どんな気持ちになってほしいかな？
朝	玄関に入ってきたお母さんが、あたたかい気持ちになるように、お母さんの気持ちから、
自分の部屋	色や形、おはなは、たどきにはびやがな気持ちにほれるように。
かいちん	寝ていて、つかれても、おひ、明るい気持ちにほれるように。
うらた	おれも、通るお母さん、明るい気持ちにほれるように。
トイレ	さわやかな気持ちにほれるように。
和室	和室はおちつけるように、シンプルなおもてたい。
リビング	家族でいそがしに、おちたにほれるように。
げんかん	はじめてきた人が、おいて、おちた、おちた、おちた。

写真1 グループでイメージを伝え合う

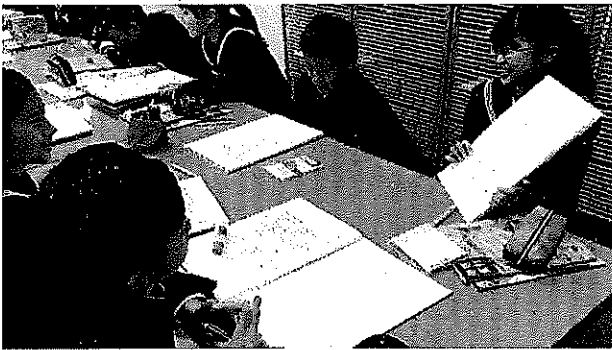
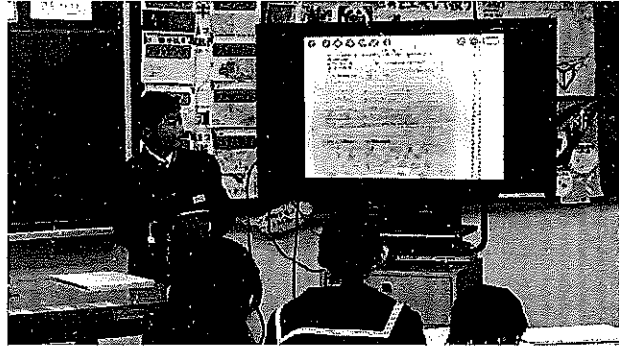


写真2 全体でイメージを伝え合う



イ 表したいイメージを伝え合う対話活動

銅版レリーフでは、複雑な形をつくるのが難しい。そのため、幾何学形態のような単純な形や線を組み合わせることで主題を伝えたい。そこで、「いろいろな形を見付ける」課題を学習過程の中に位置付ける。まず、写真3のように思いついた形をワークシートに個人で描いていく。次に、写真4のようにホワイトボードにグループで出し合いながら見つけた形を伝え合う。さらに、全体でホワイトボードに描いた形を相互鑑賞しながら、形から思い浮かぶ言葉を伝え合っていく。そして、アイデアスケッチをする時には、主題に合う形をそれらから選んで組み合わせたり、見つけた形から新たに発想したりして描いていく。最後に、アイデアスケッチから思い浮かぶ言葉のイメージを伝え合ったり、主題に近づくための形や線のアドバイスを互いにしたりしながら個人の好みにとどまらず見る人の気持ちも考えたデザインへと高めていく。

写真3 形を見付けるワークシート

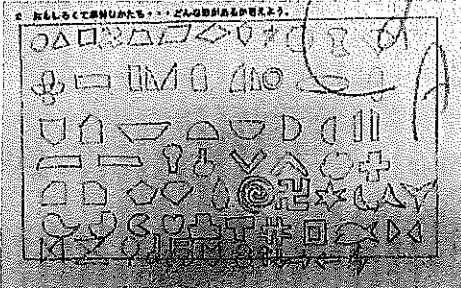
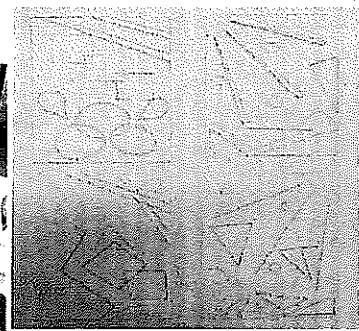


写真4 ホワイトボードにグループで出し合う



資料4 アイデアスケッチ



(2) 表現の意図に応じて創意工夫して表すために

ア 多様な道具を用意

表現の意図に応じて工夫して表せるようにするために、多様な道具（粘土ベラ3本、へら押し2本、フォーク）を用意する。班ごとに準備することで、使いやすくする。

粘土ベラ、へら押し用のへら、フォーク

写真5 多様な道具

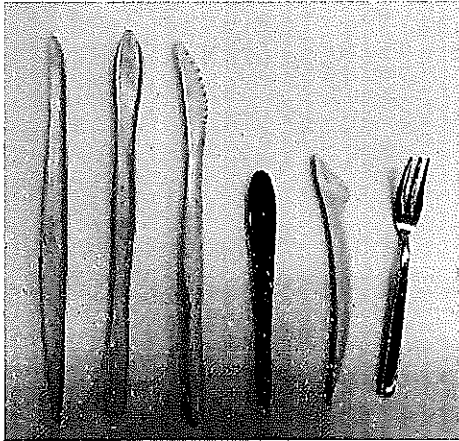
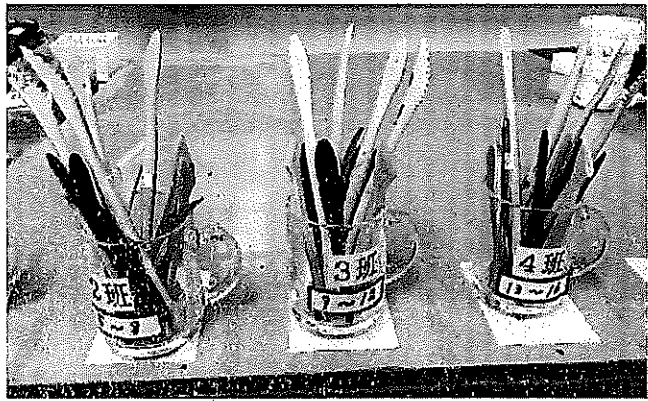


写真6 班ごとに準備



*思いに合わせて道具を選び、工夫して表す。



イ お試し銅板の準備

銅板の表現を確認するために、お試し銅板を用意しておく。お試し銅板で道具の違いによる表現の違いを感じ取りながら、表現の意図に合わせて道具を選び、表せるようにする。

III 研究の成果と課題

1 成果

イメージを伝え合う対話活動をすることで、自ら主題を生み出し、表したい形のイメージを明確にすることができた。また、多様な道具を準備することで、生徒は、表現の意図に応じて道具を選び、工夫して表す姿が見られた。そして、予めどこに飾りたいか、見る人にどのような気持ちになってほしいか考えた上で制作させたことで、思いをもって意欲的に制作する姿が見られた。「銅板レリーフが完成したら飾りたい」と答えた生徒が68%いた。家庭の事情などで実際に飾れた生徒は57%だったが、自分でつくった作品を飾ったり使用したりして生活を楽しむ意欲を高められたと考える。

2 課題

身近なもので、へら押しの道具をもう少し見付け、表現の幅を広げたい。